

【全学共通教育センター・体育教育科目】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目
- ・担当教員
- ・実施日時/場所
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

②ワークショップ：

- ・実施日時/場所※公開授業と日時/場所が異なる場合のみ記載してください
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）
- ・ワークショップでの意見交換内容

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

- ・テーマ
- ・概要
- ・実施日
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

体育教育科目カリキュラムにおける開講科目の検討

令和6年度より実施された体育教育科目の実技教育科目（5種目9科目）の開講に伴い、履修希望者の動向を引き続き注視し、適切な科目とクラス数で開講できるようカリキュラムを検討した。

また、令和7年度の春学期より「健康科学実習」の定員を25名から30名に増やした。定員増加の理由は、履修登録の抽選で定員まで合格を出しても、その後約10%の学生が登録を削除するため、履修者数が定員に満たないことが常に発生していたためである。定員増加による授業運営上の問題がないことを確認しつつ、履修者数の推移を検討した結果、同年度秋学期より定員を30名から、さらに10%増の33名にした。

定員を33名までに増やした結果、「健康科学実習」の履修者数は定員25名時から増加しており、一定の効果があったと考えられる。

この結果をもとに、「健康科学実習」の定員は維持し今後の履修者数の推移を検討することとする。

3. 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとして、今年度同様に体育教育科目のより適正な運営体制を追求することを目的とし、引き続き各科目の履修者数の動向および現状の把握に注視することとする。これにより適正なクラス数、クラス規模（定員数）を判断する。

これらの取り組みは学生への質の高い教育水準を担保するとともに、体育教育科目を通じて学生のスポーツ活動への意識（健康面、競技力、教育面）と体育教育の理解度の更なる向上を図ることに寄与することが出来ると考えられる。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。